

「核兵器の廃絶を求める建築人の会」を各地に

論説

——再び反核をよびかける——

「核兵器の廃絶を求める建築人の会」が生まれました。30数名の世話人、三百数十人の呼びかけ人によって5月10日に集会が開かれアピールが採択されました。賛同者の中には「平和を守るために軍備を」「政治的に利用されるのは絶対反対」、逆に「軍縮も主張せよ」などさまざまな意見がありますが、「多数の人命を瞬時に奪い、さらに、建築、都市を破壊・汚染することを伴って人間の生存を拒否しつづける核兵器の使用ならびに存在はこれを許すことができません」（アピールより）という原点をふまえたひとりひとりの決意表明を基盤にしたい、という代表世話人（海老原一郎、佐藤次夫、武基雄、西山外三の諸氏）の意志で統一されています。

3月号の本欄で「建築家も反核の声をあげよう」とよびかけましたが、わずか数ヶ月の間に建築界だけでなく国内の反核の運動は、大きく拡がりました。3月には広島で20万人、5月には東京で40万人の反核集会が開かれ、国連特別軍縮総会にむけての署名は2865万名に達したということです。全世界で約1億ということですから日本の果たした役割は相当のものといえます。国連の総会を前にしたニューヨークの反核集会には50万人が集まったといわれます。

しかし一方では、このような波のうねりを恐れて、レーガン大統領は国連へ出かけようとする日本の代表の多くにビザの発行を拒否しました。また、英国とアルゼンチンのフォークランド諸島をめぐる紛争は、超近代兵器による戦争となり、最近ではイスラエルのレバノン侵攻という事態も起り、限定核戦争の危険はますます大きくなっているといわなければなりません。

核兵器を廃絶する運動は、今後一層大きくしてい

なければなりません。

大きな意味で「建築」にかかわる人びとは、五百数十万を数えるそうです。それらのすべての人びとに、反核のよびかけをしていきたい、反核の意志表明をしてほしい、そう考えて「建築人の会」という名前にした、と「核兵器の廃絶を求める建築人の会」の世話人の方がたはいわれます。

アピールは、英・仏語に翻訳されて各国の団体・個人に送る用意がすすめられ、国内にむけては、アピールを送り、賛同者には「私は反核の意志を表明する」という署名を返信してもらおうという「アピールカード」がとりあえず3000枚つくられる予定だということです。世話人の秋山東一氏ら「反核9人の会」では反核Tシャツを製作しています。建築人として「核シェルター」をどう考えるかというシンポジウムの開催も話題になっています。

会にあつまった人たちのいわれるようにいろいろな創意を生かしながら、五百数十万の建築人に意志表明をってもらう運動は、たいへんなエネルギーを必要とはするけれども、たいへん大きな意義をもつものです。

「建築人の会」では、日本の各地に世話人会をつくらせようとして準備をすすめています。

以前から「環境や文化を破壊する戦争に反対」の意志表示を明確にし、かつてベトナム建築界に対する連帯支援の運動の中でもそれを支える大きな力を発揮した経験をもっている「新建」の会員諸氏が、今回もまた「建築人」の結集のために、各地で大きな支えの力を発揮されることが期待されています。

（新建全国常幹 高橋偉之）

